

<活動の様子>

地域の絆つくるには？ 松山の市民グループが家庭訪問 2014年12月30日(火)

Bookmark 0 おすすめ 0 ツイート 8

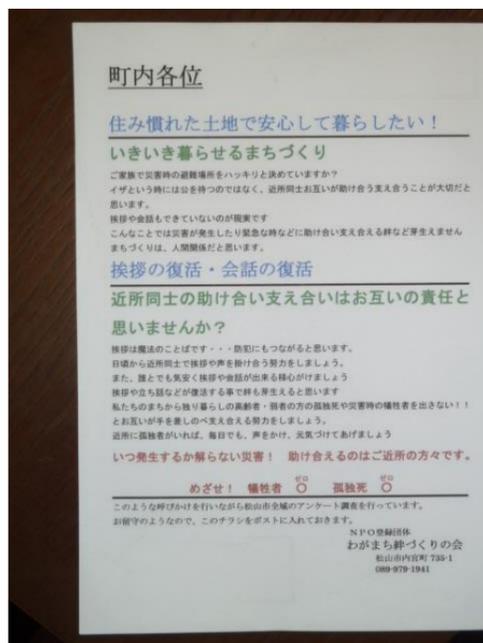
大災害など万が一の際に助け合える地域づくりに向け、愛媛県松山市内宮町の市民グループ「わがまち絆づくりの会」(長谷川ツヤ子運営委員長の)メンバーが、市内の家庭を訪問し、課題の洗い出しなどを進めている。聞き取りなどを通し、想像以上に地域の絆が失われていると実感。「便利な世の中で壊れてしまった絆を取り戻そう」と意気込んでいる。

北条地区の海岸部で、運営委員の門屋和敬さん(67)が呼び鈴を押す。「災害時の避難場所は決めていますか」「ご近所で付き合いはありますか」。市の登録NPO団体だと告げ、柔らかに話し掛ける。当初は警戒していた住民も「避難所の集会所は、自宅と同じくらい低い場所で不安」「1週間以上、誰とも話をしてない」と本音を語り出した。

会は東日本大震災を機に、命を守る助け合いができる地域づくりを目的に2011年に発足。当初は集会所単位での「井戸端会議」を計画するなどしたが、参加者が集まらず難航した。そこで「一軒ずつに活動の大切さを訴えるしかない」と一念発起し、各戸への訪問とアンケートを決意。地道な歩みを進める一方、要望があればボランティアの学生らと同居の高齢者方の草引きや電話相談も行う。



【写真】一戸一戸を訪ね、絆づくりの大切さを呼び掛けている「わがまち絆づくりの会」の門屋和敬さん=10月下旬、松山市内



事業名 地域安全活動 生命を守る助け合い 絆づくりと交流の場づくり

<目的>

平成26年12月30日愛媛新聞にアンケート調査活動が掲載されました。

日ごとに増える独り暮らしの高齢者・弱者の発見と生命を守る助け合い絆づくりの呼び掛けを行っています。イザという時、支え合えるのは近所同士です。アンケート調査で気づく点は中心部、街中では近所同士の挨拶や会話が無くなっています。立ち話でもよい、絆を作ることが生命が助かることだと訴えています。災害発生時被害者を出さない！声を掛け合う町づくり！アンケート調査の際に近所同士の絆づくりをお願いしています。

<事業内容>

松山市全世帯を対象にアンケート調査の実施。不在宅にはチラシを配布しています。予想以上に不在宅が多く一度でお逢いできるのは平均30% 独り暮らしの高齢者・弱者の方には時間をかけて自分から進んで声をかけ挨拶することが災害から身を守る、支えてもらえる方法だと説得！かなりの効果が期待できると思った。高齢者宅の掃除や草引き等々のボランティア活動も行っています。

<市民の参画や他団体との連携>

釣り愛好会、テニス愛好会の方々のボランティア活動参加、まつやま NPO サポートセンターのご指導で各団体と交流、NPO 法人あいネットワーク (消臭剤の取引を含め交流を深める)

<市民に対するPR>

新規会員募集中 (年会費 1,000 円) 年4回活動状況報告書発行予定、パンフレット・チラシ 配布中ボランティア活動に協力して頂ける方、月の活動2・3日でも結構です。

活動は皆様のご支援により成り立っています。